

怪物に寄生されて 肉オナホになっちゃう話

図書室の地味っ娘 宮藤さつきの場合

基本CG 9枚

総枚数 80枚



…誰？

6月12日

この日、僕は図書室の端っことで読書に耽る彼女に偶然出会った。

僕もこの図書室はよく利用するのに今までこんな可愛い彼女の存在に気がつかなかったのが不思議だ。彼女も僕のことを認識したのは今日が初めてのようにだった。



…その本、君も好きなの…？

本の好みが近かった僕たちは昼休みによく話すようになった。

彼女はあまり笑顔を見せる人ではなかったけれど、それでも、この時間は僕たちの距離を少しずつ縮めてくれた。



あの：：さー！隣町にでつかい本屋が
新しくできたっ：：らしくて：：その：
一緒に：：行きませんか？

…うん

しどろもどろになりつつも、僕は初めて
デート：：と言つていいかはわからない
けど：：とにかく一緒に出かける約束を
彼女とすることができた。

この日は学校から帰った後もずっと
心臓がドキドキしっぱなしだった。



…どうしたの…え？

数日後の土曜日、彼女とのデ、デートの日がやってきた。
初めて見る私服の彼女を前に、僕はガチガチに緊張していた。

か、可愛い…そんなことないよ…？



：：もう：：あんまり
からかわないでよ：：

そう言つて恥ずかしそうに微笑む
彼女の姿はいつも以上に輝いて見えた。



…でも…ありがと…

…今日、この帰り、僕は彼女に
伝えるんだ…自分の気持ちを…。



二人で過ごした時間はあつと言う間に
過ぎていき…そして…

誘ってくれて…ありがとう

…すごく楽しかった

…！



…あの！僕とお付き…え…？

…え？



：・僕は見てしまった。
彼女の背後に吐き気を催すほどの邪悪な
何かが蠢いているのを…

そして、錯乱した僕は訳もわからず
その場から逃げ出してしまった…
困惑する彼女を置いて…



次の日：…いつもの場所に彼女はいた。
やっぱ昨日のは僕の見た幻覚だったのだろう…

昨日のこと…謝らないと…



突然だった。彼女はおもむろにバストを脱いで
甘い声で僕に囁いた。

ね・・・君、私と交尾したいんでしょ？



ほらほら……このぴちぴちムチムチの
牝の体に……子種、仕込んでお？

ほら、おちんぽ出しなよ

この娘は……誰……だ？





すつごおい：・大人しそうな顔して
こんなおちんぽ隠してたんだあ

彼女は僕のちんぽに鼻をこすりつけて
スンスンと臭いを嗅いでいる…
まるで獣のように…

くっさい雄の臭い…

ムニ

静かな図書室に彼女が僕のちんぽを
しゃぶりあげる音が響く……
快感と疑問で頭がおかしくなりそうだ。

ゴポッ
ゴポ
ゴポ
にゅ

じゃーあー、たまたまに貯めた
おせーし吐き出しちゃってえ

ま、待つてそれは本当にだ…

気持ちよくなっちゃお！



スパー…

容赦のないピストンで僕のちんぽ…が…
絞り…あげ…あ…あああ…あああああ

おほっ…もっとおちんぽっ！

おっ

ほっ

おっ

パイ
パイ

パイ
パイ

彼女のおまんこに情けなく中出ししてしまった僕はそのまま氣を失ってしまった。

足りない……おまんこ満足してないのお……

そして：意識を取り戻すとそこには彼女の姿は無かった：



彼女が姿を消して数日後
僕は変わり果てた：：彼女だつたモノを
ようやく見つけることができた：：

その後



宮藤サツキの記録



実は最近、図書室で男の人と話すようになってきました…
男の人つてもつと怖いと思っていましたが、
その人はとても優しくて私の話す本の感想もずっと
聞いてくれるんです。
ですが今度一緒に出かけることにもなってしまい…
今から心臓がドキドキです。



…どうしたの…え？

か、可愛い…そんなことないよ…？

そ、そんなこと急に言われると…
びっくりしちゃうよお…



それは突然の出来事でした。
何かを言おうとしていた彼は突然顔を
真っ青にして走っていつてしまったのです。

・・・？

そして、混乱した私はズルズルと音を立てて
近づいてきたソレに気がつくことができず・・・





怪物は私を…丸呑みにしたのです。

な……何……怖いよお……
私……何か飲まされてるう……

怪物に丸呑みにされた私は服も
溶かされ、全身の穴という穴に
管のようなものをねじ込まれ、
何かをたくさん注がれてしまったのです。

パイプ……

フ

ー

パイプ

パイ

パイプ……



・・・あ・・・嫌あ・・・

あ・・・ああ頭の中っ・・・
何か入ってキテるうっ・・・

ズズ...

その怪物の意識のようなものが刷り込まれ、
私の体は乗っ取られてしまいました。

パップ...

んぐ

おほお...きもひ...い...
うひつ...こ...交尾い...

人間の雄と...交尾...しましゅ...
...わたひ...交尾...しましゅ...

ヌメ...

ほらほら……このぴちぴちムチムチの
牝の体に……子種、仕込んでおっ？

ほら、おちんぽ出しなよ

彼のことを精子袋としか思っていない怪物は
私の身体で彼を誘惑し始めました。
お願い……助けて……このままだと……私……



すつごおい：：大人しそうな顔して
こんなおちんぽ隠してたんだあ

あ：：だめ：：お、オチンポ見せられたら：：
おまんこヒクヒクしちゃうよお：：
やだあ：：違う：：私：：交尾なんて駄目：：

くっさい雄の臭い：：

にゅ

おほおおおお！おちんぽお！
おまんこの奥グりグり削つてりゅううう！

お
ややだあ……
私こんな声出したくない……違う……
気持ちよくなんて……な……う……あ……

ほっ

おまんこ……よだれ垂れちゃうつ……
おまんこ……だめ……もう……負けちゃ……

おまんこ壊れりゅつ……壊れちゃうつっ！

パイ
パイ

パイ
パイ

あ……あは……せーしビュルビュル出てる……
でも……まだ……全然……足りない……

おほっ・・・もっとおちんぽっ！



わたしはもつとたくさんのおせーしが
ほしかったので、公衆便所になることにしましたあ。

ドキ

もつと…もつとお…
色んなおちんぽハメハメしたい…
早く…早く誰か来て…!!

中出し自由

♡ 禁止 !! ♡

下品におまんこを見せていると
だんだんとオス臭いおちんぽが
集まってきてくれました。

おほお・・・くっさいおちんぽきたあ・・・

出し自由
禁止!!♡



たくさんのおちんぽにいじめてもらって
わたしのおまんこも孕む気まんまんになってしまいました。

おっ……ひびく……イグっー！

おまんこ喜んでるっ！



ドチゅっ
グビッ
ドチゅっ
ド

イグっ…イグうっ

ザーメンタンクになりゅっっ



トビエール

えへっ……えへへえ……

おちんぽだーいしゅめい……

こんなにきもちいいことお……
なんでいままでしらなかったんだろお……



たくさんおせーしを注がれて
わたし精液便所になっちゃった…

おあ…♡

お…

中出し自由

♡ 禁止 !! ♡

しばらくこうしておちんぽの余韻に浸っていたのですが
突然わたしは自分の体から何かが這い出てくるのを感じました。

わたしにおちんぽの快楽を教えてくれた
ご主人様が、私の脳ミソから這い出てきたのです。

お・・・おいっ

中出し自由
♡ 禁止 !!

そして・・・わたしに注がれた精液をちゅるちゅると
すすり・・・ああ・・・これ・・・あ・・・しゅごお・・・きもひいい・・・

ニャル

ニャル

ズン

ビクッ

ワキ

ワキ

ビクッ

ご主人様の食事が終わり、わたしはまた次のおちんぽを期待しておまんこを広げます。

中出し自由
♡ 禁止 !! ♡

んはぁ...

待っていると今までのおちんぽの臭いや味があたまの中にフラッシュバックして、思わずよだれや愛液が垂れてしまいます。きつとこれはご主人様からのご褒美なんだと思います。

あれからわたしはたくさんのおちんぽに
囲まれてとっても幸せな生活を送っています。

私は肉便器として生きていきます……
……心配しないでね、えつと……あの人……何くんだったけ……

中出し自由

♡ 禁止 !! ♡

おあ……♡

お……

先着
おちんぽ!!

ス豚

ス豚♡

犯して♡

080-XXXX-XXXX

ドク

正

正
正

正

正

正
正





























ゴッ

ゴ

ゴ

に







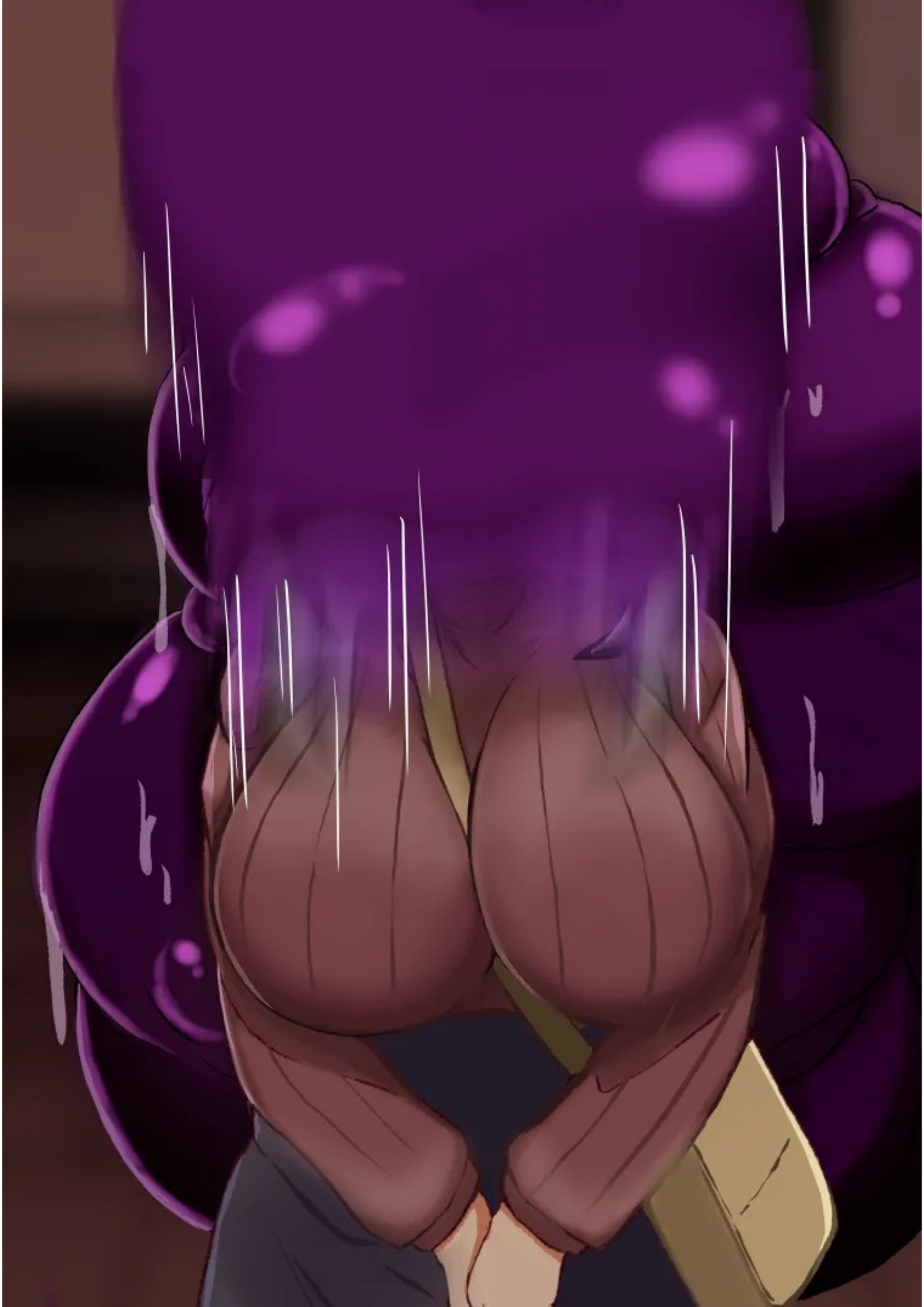














ジュパッパ...

ズッ

ズッ

ズル...



パッパッ...

ん

ズ

ズ

ズ...



ジュパッパ...

ん

ズ

ズ

ズズ...











ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

中出し自由

♡ 禁止!!♡



中出し自由
♡ 禁止 !! ♡



ビュッ

アッ

ん

おっ

アッ

お

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ







お♡

エ

エ

エ

お♡

お...

中出し自由

♡ 禁止!! ♡

エ

ドロ...

エ

エ



中出し自由

♡ 禁止!!



中出し自由

♡ 禁止!!♡

んはぁ...

